

I 17世紀に日本を訪れたケンペルに関して述べた次の文章を読んで、問1～問5に答えなさい。解答は、設問で指定された場合を除いて、すべて番号で解答用紙の〔解答欄A〕の所定の欄に記入しなさい。

17世紀の日本には、オランダ東インド会社の活動に付随してオランダ人以外の外国人も訪れた。その一人が博物学者であるエンゲルベルト＝ケンペルである。ドイツ出身のケンペルは、1683年にスウェーデンの使節団に書記官として参加し、ロシアおよびイラン（ペルシア）を訪れた。イランでオランダ東インド会社の医師となったケンペルは、さらに旅をつづけ、インドを経由してバタヴィアに到着した。そこで、A長崎のオランダ商館付きの医師として採用され、1690年来日し、約2年間滞在した。ケンペルは、滞在中に2度江戸参府をおこない、B道中で見聞きしたことや調べたことなどを記録した。江戸では、C徳川綱吉にも謁見している。ケンペル没後に出版された『日本誌』は、ヨーロッパ諸国に日本の歴史や文化を紹介する役割を担った。また、ケンペルの著作はヨーロッパの様々な言語に訳されただけでなく、日本語にも訳され紹介された。D志筑忠雄がケンペルの著作を訳し、日本が諸外国との関係を閉ざしている状態に「鎖国」という訳語をあてたことはよく知られている。

問1 下線部Aに関連して、18世紀前半に幕府が実施した長崎貿易に関する政策転換について、その背景と、政策転換を主導した人物の名に触れつつ、〔解答欄B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

問2 下線部Bに関連して、次の資料a～cは、ケンペルが1691年に長崎から江戸へ向かった際の記録の日本語訳からの抜粋である（必要に応じて表現を改めた）。資料a～cで述べられている場所の位置として最も適切なものを、下の地図中の1～9の中からそれぞれ選びなさい。（重複使用不可）

a

ここは（中略）小さな入江の狭くなった所にあり、約四〇〇戸の家がある。ここではすべての旅行者、とりわけ大名の荷物が、幕府から任命された役人によって検査される。また、それは大名の夫人がそっと通りぬけたり、銃や武器の類がひそかに運ばれるのを防ぐためである。

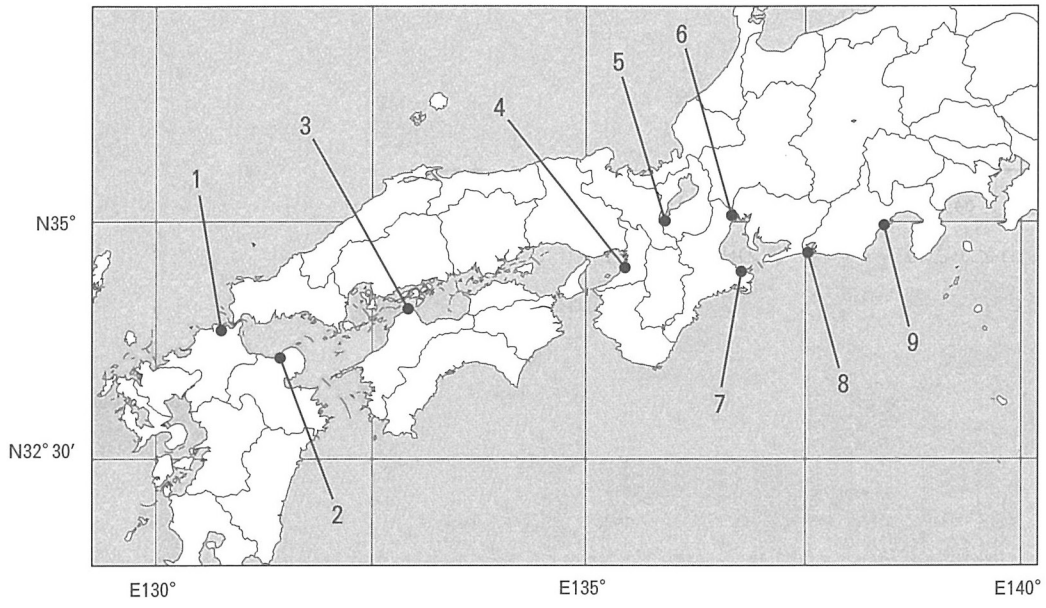
b

昼食をとってから、われわれは元気な馬に乗りかえて、川岸まで小一里ばかりを下り、さらに二里進んで、北方の湾に臨んでいるある町に着いた。この町には他のすべての小さい村と同様に、二〇〇～三〇〇の小屋や粗末な家があった。途中には炭坑があり、それを人々は大へん珍しいものだとわれわれに見せた。

c

町は三つの地区（中略）から成っていて、（中略）最初と最後の地区は、築き上げた低い堤防と堀に囲まれ、立派な門と番所とがある。これに対して中の地区は堤防もなく、土地は低く、川がたくさんあり、水に囲まれている。（中略）正午一二時には雨があがって良い天気になったので、七里半の海を渡って宮の町へ行くために、われわれは馬や荷物と一緒に四艘の舟に乗込んだ。（中略）この川を利用して多量の木材を（中略）流して来るが、また他の地方に運ばれて行く。

〔資料出所〕ケンペル（斎藤信訳）『江戸参府旅行日記』



備考：都府県境・海岸線は現在のもの。

問3 下線部Cに関連して、次の資料ア、イはこの将軍の治世に活躍した井原西鶴の同一の著作からの抜粋である（必要に応じて表現を改めた）。これを読んで、以下の（1）、（2）に答えなさい。

ア

惣じてこの米市は、日本第一の津なればこそ、一刻の間に、五万貫目のたてり商もある事なり。その米は蔵々に山をかさね、夕の嵐、朝の雨、日和を見合せ、雲の立所をかんがへ、夜のうちの思ひ入れにて、売る人あり、買ふ人あり。一分二分をあらそひ、人の山をなし、互ひに面を見知りたる人には、千石・万石の米をも売買せしに、両人手打ちて後は、少しもこれに相違なかりき。（中略）空さだめなき雲を印の契約をたがへず、その日切に損徳をかまはず売買せしは、扶桑第一の大商人の、心も大腹中にして、それ程の世をわたるなる、（中略）数千軒の間丸藁をならべ、白土雪の曙をうばふ。

（注）扶桑：日本、大腹中：度量の大きいこと、間丸：間屋

イ

その日は諸商人万事をやめて、我が分限に应じいろいろ魚鳥を調べ、一家あつまりて酒くみかはし、亭主作り機嫌に、下々いさみて小歌・浄瑠璃、江戸中の寺社・芝居、その外遊山所の繁昌なり。（中略）人みな大腹中にして、諸事買物大名風にやつて、見事なる所あり。今日のえびす講は、万人肴を買ひはやらかし、自然と海も荒れて、常より生物をきらし、 α 殊に鯛の事、一枚の代金一両二分づつ、しかも、尾かしらにて一尺二三寸の中鯛なり。これを町人の分として、内証料理につかふ事、今お江戸にすむ商人なればこそ食ひはすれ。京の室町にて、鯛一枚を二匁四五分にて買ひ取り、五つにわけて、秤にかけて取るなど、これに見合せ、都の事をかし。

（注）内証：家庭

（資料出所はいずれも省略する。）

- （1）資料アはある都市の米市に関する記述である。この都市の米市で記述のように米売買がおこなわれた背景について、江戸時代の米の流通の特徴に触れつつ、〔解答欄B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。
- （2）資料イ中の波線部 α では、鯛の代金が2つの異なる表し方で示されている。その理由を、〔解答欄B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

問4 下線部Cに関連して、次の文章を読んで、以下の(1)、(2)に答えなさい。

徳川綱吉の治世には、浄瑠璃や歌舞伎の分野においても新たな展開がみられた。近松門左衛門が数々の作品を生みだしはじめ、優れた演者も登場した。近松作品の1つである『国性爺合戦』は、(a)による(b)の復興を題材とした作品であり、主人公の和藤内は(a)がモデルとなっている。この作品は、人形浄瑠璃として1715年に大坂で初演をむかえ、好評のため17ヶ月にわたるロングランとなった。この初演がおこなわれた劇場は、独特の語り方を完成させて人気を博した(ア)によって1684年に創設されたものである。この作品は、1717年には江戸で歌舞伎として上演され、初世(イ)の荒事芸を受け継いだ二世(イ)が和藤内を演じた。

(1) 文章中の(a)に入る最も適切な人名を、次の〔語群A〕の1～4の中から、(b)に入る最も適切な語を、〔語群B〕の1～4の中からそれぞれ選びなさい。

〔語群A〕

1. 呉三桂 2. 鄭成功 3. 李自成 4. 李舜臣

〔語群B〕

1. 元朝 2. 清朝 3. 明朝 4. 李朝

(2) 文章中の(ア)、(イ)に入る最も適切な語を、次の1～8の中からそれぞれ選びなさい。(重複使用不可)

1. 市川団十郎 2. 尾上菊五郎 3. 坂田藤十郎 4. 竹本義太夫
5. 辰松八郎兵衛 6. 近松半二 7. 鶴屋南北 8. 芳沢あやめ

問5 下線部Dの人物は、ケンペルの著作以外にも天文学や物理学などのヨーロッパの学問を翻訳を通じて紹介し、自らもその学問の研究にあたった。江戸時代の天文学に関連する次のa～dの出来事は、下の年表のどこに入れるのが適当か。年表中の空欄1～7の中からそれぞれ選びなさい。(重複使用不可)

- a. 幕府が渋川春海を天文方に登用した。
- b. 幕府が天文方に蕃(蛮)書和解御用をおいた。
- c. 幕府が蕃書調所をおいた。
- d. 幕府天文方の高橋景保が投獄された。

1

徳川吉宗が将軍になった。

2

松平定信が老中首座についた。

3

シーボルトが鳴滝塾を開いた。

4

高野長英が蛮社の獄で捕えられた。

5

アメリカ東インド艦隊司令長官ビッドルが浦賀に来航した。

6

西周らが幕命によりオランダに留学した。

7

II 近代日本の元老に関して述べた次の文章を読んで、問6～問9に答えなさい。解答は、設問で指定された場合を除いて、すべて番号で解答用紙の〔解答欄A〕の所定の欄に記入しなさい。

近代日本の政界では、元老と呼ばれる政治家たちが、重要な役割を果たしていた。元老にはっきりした資格や定義はないが、彼らの多くは、幕末維新期からの政治経験をもち、明治国家の形成期に政府の中枢に入った人びとである。初代内閣総理大臣となった伊藤博文をはじめ、陸軍の創設や地方制度の整備にかかわったA山県有朋、長きにわたって財政に関与した松方正義などが元老に含まれる。彼らは、明治時代に相次いでB内閣総理大臣の地位について政府を率い、政界の一線を退いたのちは、総理大臣が交代する際に、次の総理大臣を天皇に推薦する役割を担った。政党の影響力は次第に増していったが、政権の行方を左右する元老の力は依然として大きいものがあった。

しかし、やがて元老たちはその生涯を終えてゆく。1922年に山県が、1924年に松方が死去すると、残された元老は西園寺公望ただ一人となった。西園寺が、政党の党首を総理大臣に推薦しつづけたことによって、1920年代なかばから30年代初頭まで政党内閣がつづくが、1932年に犬養毅首相が五・一五事件で暗殺されると、西園寺はC海軍の長老、斎藤実を総理大臣として推薦し、これによって政党内閣の時代は終わった。西園寺の影響力も次第に低下して、総理大臣推薦は内大臣や総理大臣経験者らの合議でおこなわれるようになり、1940年に西園寺が死去したことによって元老制度は消滅した。第二次世界大戦後、D日本国憲法では、内閣総理大臣は国会が指名することと定められ、議院内閣制が法の上で確立した。

問6 下線部Aに関連して、次のa～cの出来事は、日本の経済発展に関する下の年表のどこに入れるのが適当か。年表中の空欄1～6の中からそれぞれ選びなさい。(重複使用不可)

- a. 日清戦争の勃発により、山県有朋が第一軍司令官として朝鮮半島に渡った。
- b. 山県有朋が鹿児島に派遣され、西郷隆盛らの軍と戦った。
- c. 山県有朋が参謀総長として、日露戦争の作戦を指揮した。

1

渋沢栄一らが設立した大阪紡績会社が操業を開始した。

2

日本郵船会社が設立された。

3

貨幣法が公布され、金本位制が採用された。

4

官営八幡製鉄所の操業がはじまった。

5

鉄道国有法が公布された。

6

問7 下線部Bに関連して、次の資料a～cは、内閣総理大臣もつとめた、ある一人の政治家の日記からの抜粋である(必要に応じて表現を改めた)。これを読んで、以下の(1)～(5)に答えなさい。

a

α 井上伯を訪ふ、講和条約は償金を取らず樺太半分を得たるは不結果なれども、御前会議の決する所にて、山県は目下に於ける奉天地方の露兵は日本兵よりも多し、此上の発展には十師団の増設を要し、費用も到底如何ともする事能はざるに付、已むを得ざる次第なりし事を物語れり。

b

午後西園寺を訪問して大命を拝したる顛末を告げ、尚ほ閣員^を人選等の事に関して内談したり。
午後二時頃山県を訪問し大命を拝したる事を告げ、政友会総裁の職に居らざれば自由なれども、現位地は一身の利害を顧慮すべきにあらざれば御受をなすの外なしと告げ、尚ほ閣員の詮考に付注意を求め、差向き海軍は留任を希望するも、陸軍には(中略)誰を適任となすやと尋ねたるに、山県は今回は人選等に口出をせざる積なりしも左様の事ならばβ 田中義一と決定しては如何と云ふに付、余之を快諾(後略)

c

γ 高橋是清が米国財界の有力者シフより電信を受取りとて示すを見るに「報道せらるゝが如き日本の態度が真実にして欧州の戦争が極東にまで押移るならば最も悲しまざるを得ず、日本は中立によりて万事に利益を得べし、自ら戦争に加入すれば莫大なる危険を犯すべし(中略)」と、誠に適當の注意なれども今は如何ともなす能はざるべし、高橋は此電信を外相に送り、又シフには政府に送りたる旨返電せりと云ふに付、元老、枢密院の知人等にも送附すべしと注意せり。

(資料出所はいずれも省略する。)

(1) この日記は誰の日記か。その姓名を〔解答欄B〕の所定の欄に記入しなさい。

(2) 資料a～cが記された時期を、次の年表中の空欄1～7の中からそれぞれ選びなさい。(重複使用不可)

1

戊申詔書が発せられた。

2

幸徳秋水が大逆罪で処刑された。

3

立憲同志会の結党式が挙行された。

4

シーメンス事件によって、山本権兵衛首相が辞職した。

5

石井・ランシング協定が結ばれた。

6

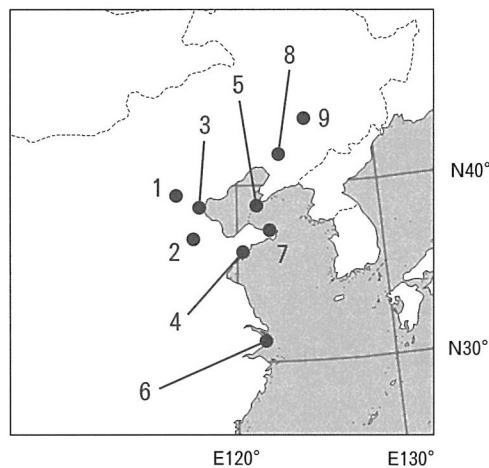
難波大助が摂政の裕仁親王を狙撃した。

7

(3) 資料 a 中の波線部 α の人物は井上馨である。井上馨が外務卿・外務大臣として推進した欧米との条約改正交渉が失敗に終わった理由を、この時の条約改正案の内容に触れつつ、〔解答欄 B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

(4) 資料 b 中の波線部 β の人物のもとでとられた外交政策について述べた次の文章を読んで、文章中の（ア）～（エ）に入る地名の位置として最も適切なものを、下の地図中の 1～9の中からそれぞれ選びなさい。（重複使用不可）

田中義一内閣では、田中首相は外務大臣を兼ね、そのもとで、中国大陸に対する強硬な外交政策がとられた。当時の中国大陸では、蔣介石のもとで、国民革命軍が中国の統一をめざして北伐を進めていたが、田中内閣は軍閥張作霖を支援する一方で、山東半島に日本軍を派遣した。1928年の 2 回目の派兵では、第一次世界大戦前はドイツの租借地だった港湾都市（ア）に上陸した日本軍は、（イ）で国民革命軍と軍事衝突を起こした。一方、（ウ）などを含む関東州や満鉄沿線を守備する任務を帯びていた関東軍は、（エ）郊外で、張作霖の乗った列車を爆破して殺害し、これに乗じて満州の日本勢力拡大をはかろうとした。田中首相はこの事件を契機に、昭和天皇の信任を失い、内閣は総辞職した。



備考：国境線は現在のもの。

(5) 資料 c 中の波線部 γ の人物はたびたび大蔵大臣をつとめた。この人物が、1930年代に立憲政友会内閣の成立にともなって大蔵大臣となった時期の通貨政策および財政政策について、その前任者のとった政策と対比しながら、〔解答欄 B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

問 8 下線部 C に関連して、ロンドンで開かれた海軍軍縮会議で日本が結んだ条約の内容をめぐる、当時の浜口雄幸内閣は国内で批判にさらされた。その批判について、批判の根拠となった憲法の規定に触れつつ、〔解答欄 B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

問 9 下線部 D に関連して、1946年にマッカーサーが新憲法制定を急いだ背景には、この時期に連合国の日本本土に対する占領統治機構が本格的に始動するという事情があった。連合国による日本本土占領統治の機構について、関係する機関の名称と、それらの役割を 〔解答欄 B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

Ⅲ 渋沢栄一に関して述べた次の文章を読んで、問10～問14に答えなさい。解答は、設問で指定された場合を除いて、すべて番号で解答用紙の〔解答欄A〕の所定の欄に記入しなさい。

渋沢栄一は、1840年に、現在の埼玉県深谷市血洗島で生まれた。生家は、農業、養蚕、製藍を家業とする豪農であった。こうした農家で生産された生糸は、A 横浜が開港して外国貿易がはじまった際には重要な輸出品となった。

渋沢は、B 尊王攘夷の志士として活動したものの、一転して一橋家につかえることになった。1867年には、徳川昭武にしたがって、パリ万博使節団としてフランスへ出立した。そして、西欧諸国の資本主義的な経済の仕組みを自分の目で確認した。

江戸幕府崩壊の報を受けて日本へ帰国した渋沢は、商法会所を設立した。しかし、大隈重信の要請を受けて、1869年に明治政府へ出仕することになった。政府では、C 民部省や大蔵省で租税制度の改正などに取りくんだ。1873年に大蔵省を辞めた渋沢は、以後は民間企業の育成に力を注いだ。同年7月には、第一国立銀行（のちの第一銀行）を開業し、総監役となった。それだけでなく、多様な分野で、近代日本の企業勃興に深くかかわっていった。

日本は、経済が発展したことにくわえ、日清・日露戦争に勝利して国際的地位を上昇させ、第一次世界大戦後には国際連盟の常任理事国となった。その一方で、日本は、D 中国への進出を活発化させた。渋沢は、E 第一銀行頭取を1916年に辞めたことで実業界から引退していたが、移民問題の解決や国際親善をめざして、ワシントン会議にオブザーバーとして参加している。1923年に関東大震災が発生した際には、大震災善後会を創立して副会長となるなど社会貢献事業にも取りくんだ。

問10 下線部Aに関連して、この当時に横浜の開港を取り決めた条約では、日本人商人と条約締結国の外国人商人との取引方法はどのように制約されたか。その制約の内容について、〔解答欄B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

問11 下線部Bに関連して、次の資料a～cは、イギリスの外交官アーネスト＝サトウが日本の政情を回想した著作の日本語訳からの抜粋である（必要に応じて表現を改めた）。資料a～cで述べられている出来事は、下の年表のどこに入れるのが適当か。年表中の空欄1～6の中からそれぞれ選びなさい。（重複使用不可）

a

江戸市中の住民は、やがて慶喜に突き付けられる要求についてはまだ何も知らず、昨年十二月薩摩屋敷の焼打ちの際に一部の者の被った災厄を思い出して、大火の起こることだけを心配していた。（中略）四月四日に、江戸湾の砲台は、町の方へ向けられていた大砲をおろして、官軍の手に引き渡された。これが八日の情報であった。

b

ところで、外国代表と^{ほうきのかみ}伯耆守との会談は数時間つづいたが、その要点は次のようなものであった。すなわち、大君は天皇に対して自己の所信を力説し、大君の従兄一橋の切なる献言もあって、天皇もついに条約批准に同意されたが、その際一橋は、天皇がこれに応じなければ、自分は腹を切るつもりであると明言した（ということである）。

c

われわれが去るとき、日本の大砲はまだわれわれ目がけて発砲をつづけていた。弾丸は一つも、わが艦隊のところまで届かなかったのであるが。しかし、このようにわれわれを追い撃ちしたので、わが方が数か所の砲台を破壊し、また鹿児島町を廃墟と化せしめたにもかかわらず、薩摩側では自分の力でイギリス艦隊を退却の止むなきに至らしめたと主張するのも無理ではなからう。

〔資料出所〕アーネスト＝サトウ（坂田精一訳）『一外交官の見た明治維新』

1

日米修好通商条約が調印された。

2

五品江戸廻送令が出された。

3

薩摩・会津両藩などが、長州藩と三条実美らの勢力を京都から追放した。

4

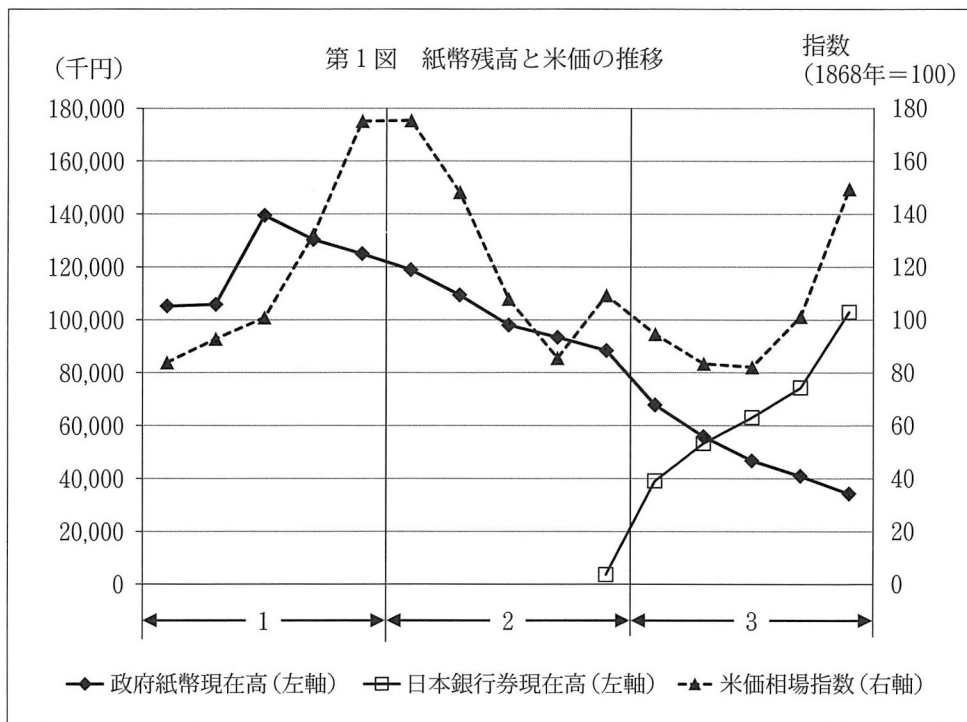
徳川家茂が急死し、幕府は第二次長州征討を中止した。

5

五稜郭にたてこもっていた榎本武揚らの旧幕府軍が降伏した。

6

問12 下線部Cに関連して、次の図は、年号が明治と改元されたのちの、ある15年間における日本の政府紙幣残高および日本銀行券の発行残高と米価の動向をグラフ化したものである。図の横軸の1～3は、5年ごとの区分である。次のa～dの出来事が起きた時期を、図の1～3の中からそれぞれ選びなさい。ただし、1の時期より前の場合は0を、3の時期よりの後ろの場合は4を記入しなさい。（重複使用不可）



〔資料出所〕『明治以降 本邦主要経済統計』より作成。

- a. 新貨条例が公布された。
- b. 大日本帝国憲法が発布された。
- c. 地租率が地価の3%から2.5%へ引き下げられた。
- d. 福地源一郎らを中心に立憲帝政党が結成された。

問13 下線部Dに関連して、次の資料1～4は対華二十一カ条要求の内容の一部である（必要に応じて表現を改めた）。
中華民国政府は1915年5月にこの要求の大部分を承認したが、それ以前に日本側が撤回したものを、1～4の中から1つ選びなさい。

1

支那国政府は、支那国沿岸の港湾及島嶼を他国に譲与し若くは貸与せざるべきことを約す

2

支那国政府は、本条約締結の日より九十九ケ年間日本国に吉長鉄道の管理経営を委任す

3

支那国政府は、南満州及東部内蒙古に於ける鉱山採掘権を日本国臣民に許与す、其採掘すべき鉱山は、別に協定すべし

4

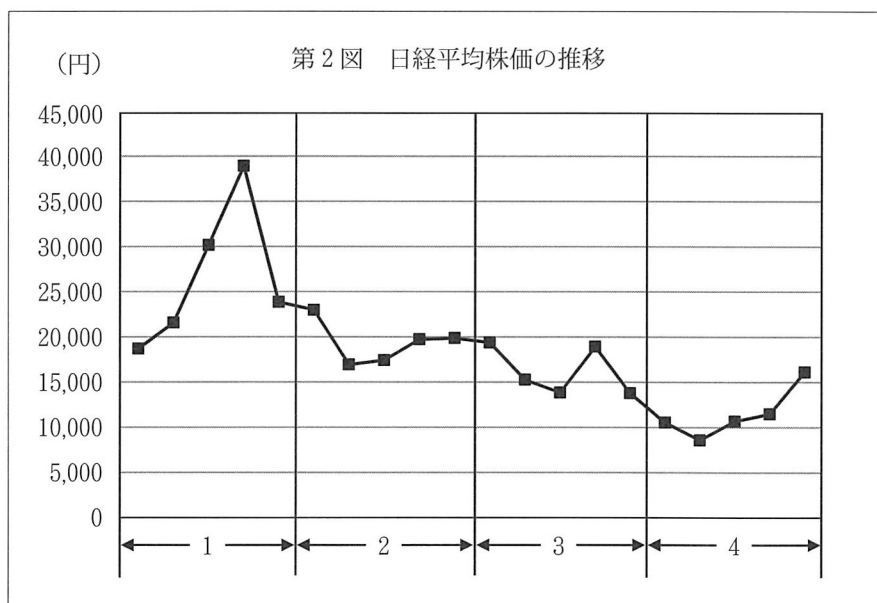
中央政府に、政治財政及軍事顧問として、有力なる日本人を備聘せしむること

〔資料出所〕『日本外交年表並主要文書』上巻

問14 下線部Eに関連して、次の文章を読んで、以下の(1)、(2)に答えなさい。

第一銀行は、1971年に日本勧業銀行と合併して第一勧業銀行となった。この第一勧業銀行は、日本の有力な都市銀行の1つとして、第二次世界大戦前の α 財閥とは異なった特徴を有する、いわゆる企業集団を形成した。この企業集団は、戦後日本経済に大きな影響力をもっていたが、 β 地価や株価の変動などを通じて日本経済が大きく変わったため、新たな状況への対応を迫られることになった。しかし、国際化が進む中で、企業集団も政府もこの変化に対応しきれないまま、日本経済の低成長からの脱出への模索がつづいている。

- (1) 下線部 α に関連して、財閥が戦後の企業集団に再編されることになった経緯を、占領期の経済改革の内容に触れつつ、〔解答欄B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。
- (2) 下線部 β に関連して、次の図は、第二次世界大戦後の、ある20年間における日本の日経平均株価の推移をグラフ化したものである。図の横軸の1～4は、5年ごとの区分である。次のa～dの出来事が起きた時期を、図の1～4の中からそれぞれ選びなさい。ただし、1の時期より前の場合は0を、4の時期より後ろの場合は5を記入しなさい。(重複使用不可)



〔資料出所〕『近現代日本経済史要覧 補訂版』より作成。

(注) 株価は年末現在のもの。

- アメリカの投資銀行のリーマン=ブラザーズが経営破綻して、世界的な金融恐慌が起こった。
- 小渕恵三内閣が、自由党および公明党と連立内閣を成立させた。
- 竹下登内閣が、消費税を導入した。
- 細川護熙^{もりひろ}内閣が発足した。